

数 学

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

※第4問は「数学Ⅰ・数学A」または「数学Ⅱ・数学B」のどちらか選択

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	数学Ⅰ・A 整数の性質/数と式	標準
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問	数学A 場合の数・確率	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 図形の性質・三角比/データの分析	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 積分法・三角関数・対数/空間ベクトル	標準
2/4	第1問	数学Ⅰ・A 数と式/整数の性質/データの分析	標準
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問	数学A 場合の数	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 2次関数/図形の性質・三角比	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 小問集合/数列・ベクトル	標準
2/5	第1問	数学Ⅰ 数と式/集合/必要十分条件	やや易
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問	数学Ⅰ データの分析	やや易
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 確率/図形の性質・三角比	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 積分法・常用対数/数列	標準

試験時間は2科目で120分なので、1科目にかけられる時間は概ね60分である。出題形式は、すべてマークシート方式で、大問が4題出題される。第1問～第3問が必答で【数学Ⅰ・数学A】からの出題、第4問が【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B】の2題から1題を試験会場で選択解答する問題になっている。第1問は小問集合問題で3～4問が出題される。第2問、第3問は単独テーマ問題で3～5問の小問で構成されている。第4問(選択問題)は、いずれも問1、問2に分かれた中間で、例年は、それぞれが単独テーマ問題になっているが、2018年度は、【数学Ⅱ・数学B】の問1のみ小問集合形式の出題になっていた。

【数学Ⅰ・数学A】については、難易度は、例年、やや易～標準のレベルであったが、2018年度は、やや易の問題が減り、ほとんどが標準レベルであった。また、出題範囲の偏りは無く、バランスの良い出題になっている。ただし、問題によって、計算量が多く、試験時間内で全問を解答するためには、時間配分が重要になってくる。特に、「データの分析」からの出題には計算が伴うので注意が必要である。

選択問題の【数学Ⅱ・数学B】については、難易度は標準レベルである。出題範囲は、問1が数学Ⅱ、問2が数学Bから出題されている。前述のように、問1では、例年、数学Ⅱからの単独テーマであったが、2018年度は、小問集合で数学Ⅱの広範囲から出題されたので、次年度以降は注意が必要である。

数 学

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

概ね60分の試験時間で大問4題の構成は、センター試験と類似しているが、試験時間に対して問題量は多めのため、時間配分を含めて対策が必要である。

●基礎固めから始めよう

梶山女学園大学の試験問題は、基本的な標準レベルの問題が中心であるため、教科書の内容をしっかりと理解し、定理や公式が正確に使えれば十分攻略できる。まずは、基本事項の確認からスタートしよう。教科書傍用問題集の基本問題（ベーシックレベル）を中心に解くことで、各単元の基本事項（基本性質、基本定理・公式）の理解ができているかチェックし、不完全な部分は教科書に立ちかえり確認する。教科書の該当箇所を、例題も含めしっかりと読み込んで理解することが重要である。わからない部分があれば、学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧になる。わからないままにしておくことは最も危険である。

●実戦力を身につけよう

次に、実戦力を身につけよう。第1問で出題される小問集合形式の問題については、市販の小問集でのトレーニングが有効である。第2問～第4問については、センター試験の過去問や、センター試験対策用の問題集を演習することで、実戦力に磨きをかけたい。また、模擬試験の解き直しも有効である。

同大学では、「データの分析」からの出題が多くみられる。「データの分析」については、高校の授業で演習量が少ないため苦手とする受験生が多い。問題集によっては扱う量も異なるので、参考書の例題などを活用するとよいだろう。センター試験「数学①」で「数学Ⅰ」（数学Ⅰ・Aではなく）の過去問を演習することも有効である。

近年の入試傾向の一つに「計算力」があげられる。計算力は、普段の努力がそのまま表れるものなので、毎日、わずかでもよいから計算のトレーニングは欠かさないでほしい。

●最後に

同大学の入試では第4問が【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B】からの選択問題になっている。そのために、数学Ⅰ・数学Aのみの学習で受験することが可能であるが、数学Ⅰの数と式、2次方程式については、数学Ⅱの式と計算、複素数と方程式を学習している方が有利である。予め数学Ⅰ・数学Aのみでの受験を考えている受験生は注意してほしい。

最後に、過去問の演習を通して、大問の解答の順番や、大問ごとの解答にかかる時間のシミュレーションを組み立てておこう。特に、第1問は小問集合なので、問題量が多い。ここにかかる時間のシミュレーションができていれば他の受験生とは確実に差がつくはずである。

ここまでの準備が整えば、結果は必ず伴ってくる。健闘を祈る。